

観光振興対策特別委員会記録

開催日時 平成27年11月24日(火) 13:02~14:25

開催場所 第1委員会室

出席委員 8名

乾 浩之 委員長
松本 宗弘 副委員長
猪奥 美里 委員
小林 照代 委員
清水 勉 委員
岩田 国夫 委員
和田 恵治 委員
新谷 絃一 委員

欠席委員 なし

出席理事者 福井 観光局長

金剛 まちづくり推進局長 ほか、関係職員

傍聴者 1名

議 事

(1) 12月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

<質疑応答>

○乾委員長 ただいまの説明、報告またはその他の事項を含めて質疑があれば、ご発言お願いいたします。

○和田委員 大立山のイベントについて1問質問します。大立山まつりのイベントを実施した場合の着地点及びその成果物が、どのようなものか。冬季の誘客イベントで、市町村が参加してまでの取り組みで、奈良県の平城京の誘客だけではいかなものかと思っています。その点で成果物、ほかに説明できる内容があれば教えていただきたいと思います。

次に、観光振興にかかわってお尋ねします。奈良県の観光振興にかかわっては本当に奈良県を挙げて頑張っていること、これはよく感じています。特に奈良市、いろいろな観光資源を動員して追求していくというイベントの取り組みがされていることもよくわかりますが、鳴り物入りで進められた記紀・万葉プロジェクト、この方面での企画が

もう一つ進んでいないのではないか。その裏づけということで感じることは、奈良市のほうに観光客はたくさん来るけれども、記紀・万葉プロジェクトの歴史の主な中心の舞台である中南和地域への観光客がそんなに以前と大きく変わるような人数になっていないのではないか。そういう意味で今日もこういう形で阿倍仲麻呂の遣唐使の関係、事業の報告がありますが、本当にお寒い限りと感じています。この点については、記紀・万葉プロジェクト、中南和地域の取り組みについてどうお考えなのかお示しいただきたい。以上です。

○林観光プロモーション課長 大立山まつりの成果というか、経済効果的なものをもくろんでおりますので、そのことについて説明します。

今回、地方創生の交付金を使って冬季に旅館、ホテルの宿泊割引をするネットクーポンキャンペーンを行う予定です。そこに合わせて今回のキラーコンテンツである大立山まつりを含め、先ほど観光局長から説明をいたしました。1月、2月、いろんなイベントをPRしていくことを考えており、ネットクーポンキャンペーンで4万人の観光宿泊客の増加を目指しています。宿泊客の1人当たりの観光消費額が2万7,000円ですので、もくろみどおり4万人宿泊、増加した場合にはおよそ10億円の観光消費額の増加が見込まれます。

平城宮跡単体では過去、平城京天平祭、夜のイベントを夏はしていますけれども、そういった集客の数字を参考にして、今回5日間で3万人の集客を目指しているところです。これを日帰りに想定したところ、観光消費額1人当たり約4,000円になりますので、メインイベントの大立山まつりに3万人の集客があった場合にはおよそ1億2,000万円の観光消費額。ネットクーポンキャンペーンプラス平城宮跡のメインイベント、合わせて11億円ぐらいの経済効果と想定しているところです。以上です。

○中西ならの魅力創造課長 記紀・万葉プロジェクトにつきまして奈良市に組み込みが多いのではないかと、中南和への誘客につながっていないのではないかとというご質問をいただきました。

今年度さまざまな事業をやっておりますが、例えば日本書紀を語る講演会で、日本書紀に関していろいろな先生方をお呼びして、皆さんにお話を伺っていただく催しを実施、この土曜日から全11回実施します。その11回のうち1回は春日大社の特別編、古事記の特別編があるのですが、残り9回に関しては、奈良市で1回開催いたしますものの、御所市、田原本町、橿原市、宇陀市、河合町、天理市、大淀町、明日香村、王寺町など、それぞれ奈良県内各地で実施を予定しています。また、ボランティアガイドと一緒に歩く記

紀・万葉ウォークについても、全13回実施しますが、奈良市では1回です。他の中南和地域で12回を予定しています。また、JR西日本、近鉄、奈良交通と一緒に進めます大和路探訪キャンペーンについても、ことし10月から12月まで実施していますが、その舞台は山の辺の道ということで天理市、桜井市と一緒にやっています。

このような形でももちろん委員がお述べのとおり、記紀・万葉の舞台が奈良市というよりむしろ中南和地域が中心になっています。そういうものもしっかり理解した上で、そのゆかりの地をめぐっていただけるような形の取り組みをさまざま進めていきたいと考えています。以上です。

○和田委員 大立山まつりについては、いずれにしてもこういう形で進行しております関係上、成功を祈るばかりです。しかし、成果物を出さなければなりません。経済的な効果だけではなくて市町村の例えば御所市、平群町、大淀町、宇陀市といったところからいろいろと出していただくわけです。この市町村の行事に少しでも関心を持ってもらって、そしてそちらのほうへ本物を、現場の村の歴史の中で培われた文化をかいでいただきながら、にぎわいのまちづくりにつながるように取り組んでいただきたいと思います。これは気持ちだけ申し上げておきます。

それから記紀・万葉の話については、今、何に取り組んでいるのか、そういう話も大切だけれども、この間の、今後のことを見据えての話をしている。既に記紀・万葉プロジェクト事業が今年で4年目になりますけれども、これだけ奈良県、特に奈良市へいろいろな人達が押し寄せているけれども、中南和地域にはもう一つ来ていないのではないか。記紀・万葉で魅力を高めていこうという方向でこの事業は入ったはずだと思う。そうすれば、その効果が出ていないということだから、ここに何か問題があるのではないか。企画力が問題なのか、観光インフラが問題なのか、観光産業に結びつくようなことに問題があるのか、いずれにしても結果としては本当に観光客があまり伸びていない。だから、何とか対策として入れていく必要があるのではないか。

特に中南和地域は国の始まりだから、この国の始まりというのは、もっと日本全国で注目されてもいいはずだと思います。奈良市は平城京、京都市は平安京、歴史的に見ても。しかし、この中南和地域は国の始まりなのだから、そういう意味でぜひともこの対策、戦略を練る必要があるのではないかと思います。これは、きょうは提起ということだけにとどめておきたいと思います。また、別の機会に論じることがあると思いますので、その機会に譲ります。

○清水委員 大立山とネットクーポンについてお伺いします。

まず、大立山については、この山車のイメージが初めて示されたのですが、全体の高さが7.4メートルということですが、山車の高さそれぞれの物の高さの区別がありませんので、どういう構成になっているのかをお聞きしたい。

○林観光プロモーション課長 本日提出した資料の別紙に全体のイメージが出ているのですが、左端のところには人の絵を書いております、これが1.7メートルぐらい。四天王の本体の部分、これが大体3.5メートルです。全体、地面のところから、これは下に車輪がついていまして、そこを引っ張るような形式になっていますが、四天王部分の高さが3.5メートルで、下の地面のレベルから四天王のてっぺんまで、これが7.4メートルですので、引き算をすると、増長天と書いている、飾り物の部分はその残りの大きさと考えています。以上です。

○清水委員 そうしますと、組み立てて、この山車を道路上で巡行させるということは考えられていないということですね。一つの高さが7.4メートルありますので、道路の建築限界を大幅に上回っていますので、かなり限定された場所のみしか運行ができないと。平城宮跡の中であれば当然問題はないのですが、他所でやられる場合、イベントとして活用される場合は当然のことながら、その場所も限定をされるという理解でいいのですか。

○林観光プロモーション課長 山車の運行場所ですが、具体的に今、平城宮跡の大極殿の院地区内は決まっております、ほかは今後どこでということは、今のところありません。以上です。

○清水委員 もう1点お伺いします。ネットクーポンについての現状について、まず、ご報告をお願いします。

○山口観光産業課長 国の地方創生関連の交付金を活用して、第一弾は夏の宿泊者限定キャッシュバックキャンペーンを開催しました。引き続き、第二弾としてネットクーポンキャンペーンについて実施しているところです。クーポンについては、10月13日より配布を開始したところです。当キャンペーンは大手の宿泊予約サイト、じゃらん、楽天、ヤフー、るるぶといった4社での予約時に最大50%の宿泊料金を割引するクーポンを設定しています。奈良県内のさまざまな幅広い宿泊施設の料金設定に合わせてクーポンも1,000円から上は5万円までという、複数種類のクーポンを設定しました。宿泊対象は平成28年1月4日のチェックインから2月29日のチェックアウトです。本事業の実施に当たっては、宿泊事業者にオンラインエージェントへの参画を促しまして情報発信力の強

化と、宿泊事業者に自助努力を求めて、それで事業者の足腰の強さにつながることにできればいいという目的もあります。

なお、各サイトのクーポンの配布ですが、各社独自の工夫を凝らしており、一度に全ての原資のクーポンを発行するのではなくて、数回に分けて利用状況を勘案した上で次の配布クーポンの種類、枚数等を考えるといった工夫をしています。ちなみに先週までですが、各社平均でクーポン原資全体の75%が利用されました。1月4日の配布開始のクーポンも残っていることなども考え合わせますと現時点、非常にいい出しではなかろうかと考えているところです。以上です。

○清水委員 その4社の部分で、今は既にもう75%がご利用なので、残りが25%ぐらいということなのですが、奈良県のホームページを見ますと確かに一番正面のホームのところから奈良県宿泊者限定ネットクーポンキャンペーン、これが10月7日にアップされていて、それをクリックしますと、別途、観光プロモーション課の画面が出てきて、それぞれのサイトにつながるという形はできています。これは確認をしたのですが、ただ、今、観光産業課長からご説明のとおり楽天トラベルから見えていくと、このサイトは見えないのです、探せない。そしてヤフーはバナーが立ち上がっていますので、ヤフーは直接そこに入り込むという仕掛けがもう既にでき上がっています。じゃらんもたしか見つけれなかったと。問題はせっかく費用をかけて、できるだけ早い時期に消化をして、予約をいただくことが一番大事なことではないかと思しますので、ぜひとも各社に積極的に働きかけをしていただいて、早期に配布が完了するめどをつけていただきたいと思えます。あっという間に12月、すぐにもう1月末になりますので、予算が残るというよりも完全消化をして地元に戻元していただくことが非常に大事だと思います。今からでも遅くはないので、それぞれのサイトとご協力をいただいて速やかに改善いただきたいと思えます。以上です。

○猪奥委員 大立山まつりについて、教えていただきたいのですが、1億5,000万円を電通がプロポーザルでとられたのは当日の巡行や運用を含めての委託なのか、教えていただきたいと思えます。

それと予算でご説明いただいた中からも幾つか、文化会館、美術館周辺県有施設除却事業ですが、老朽化が著しく耐震基準を満たしていない3つの施設に関しては、そのまま移転をするということなのか、教えていただきたい。

ナラ枯れ対策事業ですが、これまで奈良公園はナラ枯れ対策をされていて、大淵池公園

ではなかなかナラ枯れの対策がとられていなかったと思います。これまでは大淵池公園は、委託の管理費の中でナラ枯れ対策をしています。利用者の方から、木が枯れかけていて公園を使用する際に非常に怖いので、さっさと除去してくださいというお願いを受けて相談した際に、1本除去しようとする10万円ほどお金がかかり、現時点の予算の中ではなかなか難しいと、少しずつやっていくしかないとおっしゃっておられて、予算をつけていただいたのは、もう枯れていて除去しなければいけない状況になっているナラ枯れの木を全て撤去できるような予算組みをされているのか教えてください。

それとあと2点あるのですが、一つは三連休が終わりました。たくさんの方が奈良県に来ていただいて、奈良県庁周辺もぼっちり交通渋滞を起こしていました。その中で渋滞を起こしている状態をオペレーションをして、大体ナビで来られるので、その県営駐車場にお見えになられるのだと思います。かつては近隣の地図もお配りいただいていたのですが、なかなか徹底できていなくて、ここに来られた方をどう次に誘導していくのかというオペレーションの体制が課題という話を1年ほど前に一般質問でもしたかと思います。この3連休が終わって、どういう状況だったのかを教えてくださいたいと思います。

最後にWi-Fiですが、ことしの4月でしたか、奈良公園のあたりでWi-Fiがつかえるようになりました。認証が必要なシステムになっていると思うのですが、同意というところを押さないとつながらないようになっているので、一番緩いタイプの認証なのかと思うのですが、Wi-Fiの利用状況がわかれば教えてくださいたいと思います。以上です。

○林観光プロモーション課長 大立山の現場の演出も含めた運行の費用ですが、今回プロポーズの中で大立山の運行だけではなくて地域のいろいろなお祭りも現場で披露していくと。それを編んで全体の演出をしないといけないと思うのですが、そういった費用も含まれています。以上です。

○竹田文化資源活用課長 文化会館、美術館の整備に関するご質問をいただきました。

奈良県の県有施設である北分庁舎、消費生活センター、婦人会館の3施設ですが、これらの施設については、行政機能や入居いただいている団体をそれぞれの場所に移転をとということで考えています。具体的に申し上げますと北分庁舎に関しては、県庁舎の一部ということで健康管理等の施設が入っていますので、近鉄奈良駅からほど近い中小企業会館に移転をと考えています。消費生活センターについては、JR奈良駅に近いシルキア奈良に移転をと考えています。公益財団法人奈良婦人会館については昔の土連会館、猿沢池にある農

業振興会館に、それぞれ移転をと考えています。以上です。

○堀内まちづくり推進局次長（公園緑地課長事務取扱） ナラ枯れについては、大淵池公園、大和民俗公園、馬見丘陵公園の3公園について今年の夏以降、特に顕著にあらわれています。今までは、先ほどおっしゃいましたように維持管理の中で何とかやってきたのですが、急激にふえてきておりますので、今回、補正予算をとらせていただいたと。この補正予算については当然その園路の利用状況や、周辺の住民への危険度などの状況を見ながら危険度に応じて優先的にする必要があるところについて先にやっていきます。当然これだけではできませんので、引き続き平成28年度も予算の確保をしながらナラ枯れ対策について進めていきたいと考えています。以上です。

○中西知事公室審議官（奈良公園・観光振興プロジェクト担当） まず、登大路駐車場のこの三連休の混みぐあいですが、委員からご指摘のとおり、いつものように渋滞をしております、ガードマンが渋滞に対して早目に道路のほうに満車という看板を持って出ているときもあったのですが、正直オペレーションに関してなかなか徹底できていないところもありまして、確認しましたところ、駐車場案内マップの配布はできる体制にあり、ガードマンによっては配布をしているのですが、配布をしていないガードマンもいたことが判明してまいりました。この件については、奈良公園事務所にもガードマンに対してきちんと指導をし、駐車場の誘導案内をするとともに今、バスターミナルにおいて駐車場及び渋滞のコントロールをしていくという部分においても、その辺のノウハウをしっかりと生かしてやりたいと考えています。

それからWi-Fiの環境整備についてですが、この4月から奈良公園周辺のWi-Fiについて進めていまして、現在1日当たりの重複ではなく平均利用者ですが、約1,090人、それからこの3カ月だけにおきますと約1,177人の利用でして、各電信柱等にアンテナがあり、重複も含んでこのアンテナへのアクセスだけでいきますと月当たり平均約57万アクセスがある状況です。以上です。

○猪奥委員 まず、大立山ですが、次から先はまだ決まっていないというお話だと思いますが、これから先もずっと委託でされていくのですか。この中から1基7,500万円の製作費を引いた形で毎年同じぐらいの額でこれからも委託を進めていくのですか。

○林観光プロモーション課長 製作に関しましては今回FRPという結構強靱な耐久性のある素材を使いますので、基本的には今回つくったものを次年度以降も活用していく方向で考えています。製作費に関しては、その分切るという考えです。以上です。

○猪奥委員 婦人会館など、建物自体は新しいものも別に建てるわけではなく、それぞれ3つの施設の中に入っていたものはどこかの施設を借りるということです。当然これはこれまで進めてこられたファシリティーマネジメントでされた県有資産の利用状況を勘案して、この施設はもう使わないとされたのですね。

○竹田文化資源活用課長 今回、県立美術館、文化会館の改修全般の予算を文化資源活用課から計上しているのですが、そういった事情等についてはそれぞれの関係部局がありますので、今のお話については関係部局から改めてご説明をさせていただきたいと思います。

○猪奥委員 次に、知事公室審議官（奈良公園・観光振興プロジェクト担当）からご答弁いただいた駐車場ですが、委託をされている方々の資質やお話のされ方などに頼り過ぎてしまうのも、問題があるのではと思います。三連休の中で中日の22日がうまく対応できていなかった日だったと思うのですが、その日に、しばらくこの辺に立って状況を見ていたのですが、さばきたいという気持ちが余りにも強過ぎておもてなしがあるようには思えなかったです。これはガードマンや委託会社にどういうお願いをするかというのを超えて、奈良県としてたまってしまったものをどう流すのかと同時に、どれぐらい早く車がとめられて気持ちよく観光できてというところになってくるのだと思うのです。

近隣の駐車場の案内はもちろん必要ですけれども、その近隣の駐車場がどういう状況にあるのかというのも同時にお伝えすることができたらもっといいですし、ここで1時間渋滞してやっと駐車場のマップをもらったマップ先に行ったらそこは満車で、さらにこれはまた前回もお伝えしましたがけれども、県の駐車場が満車で1時間かけて別の民間の駐車場へ行ったら、たった2時間とめるのでも2,000円と言われたら奈良県は観光地として素晴らしいと思っただけに思わないと思うのです。民間駐車場の料金設定を含めて、この一帯の車をとめていただくオペレーションということの観点からも奈良県として働きかけをしていただきたいのですが、お答えいただければと思います。

Wi-Fiですが、設定、認証のランクを下げているということもあって、使っていたらいる方もいる一方で、まだまだそもそもWi-Fiが飛んでいるのをご存じない方もいらっしゃると思うのです。認知度を上げて使っていただく方をふやすとともに、このWi-Fiの状況というのはなかなか大きなビッグデータにもなりますので、今はネットを使って情報をとるといふところにとどまっているのですが、ネットを使って情報をとっている方の情報を奈良県がビッグデータとして扱って、この時間帯はここは人がおられるとか、さらにもう一歩進んで奈良県の交通政策にも生かすとか、そういう奈良県としてのあ

りがたい情報源でもあると思いますので、これから先、そのWi-Fiの接続状況ないしは外国の方から何時ぐらいにはどこに行っているというのがわかるビッグデータとしてWi-Fiを扱っていくべきだと思うのですが、今後の取り組みについてお聞かせいただければと思います。

○中西知事公室審議官（奈良公園・観光振興プロジェクト担当） まず、駐車場に対しての奈良県としての対応ですが、実はことしのゴールデンウィークに奈良県の関係課の職員が多数出まして、渋滞対策をどこまでやれるかということをした経緯があります。中身的には非常に成功であったと認識しています。そのときにやった内容といいますのが、当然近隣駐車場への誘導や近隣駐車場の空きぐあい、料金設定までの部分を伝えたかどうかというのは不明ですが、非常にスムーズに駐車場案内という看板を持った者が駐車場の入り口で誘導していましたのと、もう1点はやはりどうしても並びたいという方とのトラブルが常に出るのですが、そのときにしたのは駐車場の中に待ってもらいの承知で10台、20台入ってもらい、お尻までも満タン状態にして閉鎖した経緯があります。この場合はもう入るすき間がないというのが外から見ても非常にわかりますので、割とこの閉鎖についてはうまくいったと。これが大量に人手をかければできたのですが、決して手を抜いたわけではないのですが、そのノウハウをもって、先ほど委員からご指摘のように、警備会社に丸投げしたわけではないのですけれども、その辺の徹底が曖昧であったというのは非常に反省しています。今後、駐車場はまだまだ満車の日もたくさんあるかと思しますので、職員総動員するかどうかは別として、もう一度ゴールデンウィークの成功例を参考にどこまでやれるか、もしくは徹底度をどうするかを、例えば簡単な方法としたら、奈良公園事務所には保安員等の職員も土日、祝日出勤しておりますので、ガードマンが手いっぱいになったときには職員も出て行って、何とかヘルプでやりたいと考えていますので、ぜひまたそういう方向で見ただけたらと思います。

それからWi-Fiについては、おっしゃるようにまだまだ認知度が足りないことは認識しており、奈良市や奈良県の観光案内所や、国際的な 구글等 等で出ているような案内に周知を試みたり、いろいろやっています。セキュリティーに関しては、昨今の流れとしては今までは同意だけで入れたものが同意だけではだめだという流れになってきており、少し使い勝手が悪くなるのかという思いがある反面、今おっしゃられたようなお客様が、外国人の方が主にどこでどう接続されて、同じ人がどう動いているかというのを逆に認識することはできるようになります。今、流れとしては兵庫県はそうされると聞いてい

ますし、京都市も奈良県と同じ非常に緩いセキュリティーで接続していたのですが、警察等からの指導等もあり、全国的にセキュリティーを上げてなっています。災い転じてではないですが、何とかそれによって観光客の使い勝手が悪くなる反面、それをしっかりデータとして認識できますので、どういう移動をされているかというのもとりやすくなることを踏まえて、ニーズに合わせた形の情報発信をしていきたいと考えています。

また、奈良県の場合、外国人向けのホームページがまだないのですが、何とか来年の3月末までには非常にいいものをつくろうということで今やっています。それができれば、多くの外国の方にも見ていただけますので、そこでこのWi-Fiの周知徹底も図ってきたいと思っています。以上です。

○小林委員 2つ質問させていただきます。1つは、先ほどから質問が出ておりますが、大立山まつりについてです。

先ほどご報告もあり、実行委員会も開かれて、実施計画や予算やスケジュールなどが進んでいっているようなのですが、2億円もの予算を使って平城宮跡で開催ということで、大立山まつりについては疑問や批判の声も寄せられているところです。そして少し詳しくそういう点から実施について伺っておきたいと思います。計画によります大立山の運行時間はどのようなものか、運行は誰がどのくらいの人數でされるのか、祭りの体制はどうしていくのか、運行は平城宮跡のどういう場所をどのように使われるのか。実施概要等を見ていると、先ほど報告があった大極殿内で奈良県内各地の代表的な伝統行催事などの実演と、そして展示も報告ありました以外に奈良県下各地、たくさんのまだ伝統行催事があると思うのですが、それは、さらにもっとふやしていくのか、どのようなものかをお尋ねしたいと思います。そして運行スペースの周辺に温かい食べ物を振る舞う屋台を出店するとありますけれども、これはどういうところで何店舗をお考えになっているのでしょうか。

そしてもう一つは、先ほど予算の中では市町村の連携・協力費及び広報費として5,000万円という数字が出ていましたが、この間、市町村との協議や相談というのはどのようにされてきているのか、市町村の意見や要望はどのように反映してきているのかということです。実際やはり御所市や橿原市など伝統的な立山祭りが行われているところもありますから、この辺の皆さんの意見、要望などがどのようなものなのか、反映しているのかどうかということでまずお尋ねしたいと思います。

それから2つ目は、奈良県の観光客動態調査報告と宿泊統計調査についてお尋ねします。

2014年の県内を訪れた観光客数の動態調査が10月に発表されており、新聞報道も

ありました。それによりますと観光客数は前年比で増加していますが、観光消費がダウンしているという報道がありました。この観光客数のふえた要因をどのように見ておられるのか、観光消費ダウンの要因をどう見ているのか、観光消費をふやす課題をどのようにお考えでしょうか。

また、宿泊統計調査ですが、エリアごとの増減率を見ますとAエリアとCエリアでは若干宿泊者数がふえていました。Aエリアでは外国人の宿泊者の増によるということも記述がありました。ほかのエリアでは、4つのエリアでは減少しています。それぞれの要因があると思いますけれども、このCエリアの増の要因はどこにあるのでしょうか。

次に、一番気になりましたのが、業態別の宿泊動向です。客室の稼働率を見ますとホテルの稼働率の伸びに比較して旅館や簡易宿所が減少しています。それでこの宿泊稼働率の年間平均がホテルでは73.6%、旅館では38.7%、簡易宿所は19.8%ということで、この業界の状況は非常に低いという感覚なのですが、平均の稼働率について、これらは経営の継続が困難になるところもあるのではないかと思ったのですが、業態別の稼働率についてはどのように受け取っておられますか。

○林観光プロモーション課長 大立山に関してお答えします。

まず、運行の時間帯などですが、場所については大極殿の院内でして、夜のイベントでするので、時間帯については現在プログラム全体を調整しているのですが、日没前後からスタートをして午後8時から9時ぐらいまで実施したいと思っています。

あと誰が引くのかということですが、大きなものですので、奈良県内の市町村、大学などに協力を募りつつ、力強く運行できるようなしつらえをしていきたいと考えています。

あと屋台関係ですが、イベントの構成の中で書いているのですが、なら瑠璃絵であったかもんグランプリを去年やっていたのですが、その仕組みを使いまして平城宮跡で奈良県内市町村自慢の一品をお出しいただいて、20店舗から30店舗ぐらいになると思うのですが、そういったものを振る舞っていききたいと考えています。

あと市町村のいろいろな催事ですが、報告させていただいた資料に記載のもの以外に20弱ぐらいの行催事を現場でやっていただくお話もいただいており、ただ、例えば山車であったらそれを運ぶ費用もかかるという場合もありますので、そのあたりについては窓口の市町村とともに現在、出展に向けて調整をしているところです。以上です。

○山口観光産業課長 非常に細かいお問い合わせがございましたので、抜けていればまたお尋ねください。

観光客動態調査において、入り込み客数が3,811万人と前年から増加しているが、その理由はということですが、まずは訪日外国人がふえ続けていること、それから春日大社の第六十次式年造替の奉祝行事によるにぎわい、南、東に参りますと海づくり大会関連のイベントが好調であったこと、特に南和地域には平成26年は紀伊山地の霊場と参詣道、世界遺産登録10周年というのがありました。また、十津川温泉を見ますと「源泉かけ流し宣言」10周年に当たる記念の年でして、そのあたりの観光地点で多くのにぎわいを見せたということが上げられるかと思えます。

次に、観光消費額がダウンしているのではないかということです。観光消費額の調査は観光庁が統計を示している全国の統一基準といったもので、観光庁が実施している宿泊統計調査の結果を用いるのですが、やはり観光消費額のダウンは1人当たりの消費額の減少もさることながら、宿泊客の減少が大きいと考えます。平成26年の宿泊者減少の要因ですが、かなり天候によることも大きかったと思います。まず、平成26年2月といいますとかなり昔ですが、大雪がありました。4月からの消費税増税、貸し切りバス関連制度の改正、7月、8月の台風の接近による大雨で国道168号が通行できなかった時期があったと。また、10月の連休に奈良市内でも台風の影響があつて、かなりのキャンセルが出たといったことがあります。

また、もう一つ、観光庁の宿泊統計調査ですが、これは標本調査の結果から全体を推計するという方式がとられており、平成25年の調査時で奈良県内の宿泊施設数が493、平成26年は459になっており、前年に比べて34施設、6.9%の減であったことも推計をする上では影響は小さくなかったと思っています。

また、観光消費額1人当たりの減少ですが、これは奈良県が実施しているサンプル調査、県内10地点での聞き取り調査4,000サンプルの結果をもとに観光庁統一基準で算定されるわけですが、それぞれの単価については、お土産代については増加しているという結果があります。ただ、宿泊費については1泊二千数百円で泊まれるドミトリー関係にお泊まりになる外国人の観光客も多かったので、宿泊費が若干減少をしていると思っています。

また、奈良県の観光エリア、AエリアとCエリアは増加していると。Cエリアの増の要因は何かということですが、聞き取り調査の結果からもキャンプ場の好調も一要因としてあったのかと。Cエリアに関しましては宿泊施設の数、そして定員のキャパシティー等がそうそう多いわけではありませぬので、1施設の変動によっても要因が大きくなるのでは

ないかと思っています。

最後に、宿泊施設の業態別の稼働率ですが、ホテルは非常に好調であるが、旅館が低いのではないかといったようなことがあります。これは観光庁の調査についても旅館の稼働率が低いことはあらわれています。ホテルは全体的に好調な動きでして、簡易宿所はもともと営業規模が小さいようなこともあり、施設ごとにかなりのばらつきが見られると。ただ、旅館についても旅館と一言でくくってはしまいますが、中身を見ましたら団体別の旅館もありましたし、個人客中心の旅館もあります。あわせて地域ごとの差というのもありまして、個別施設の特徴、地域の要因などもやはり大きく左右するのではないかと考えています。こういうカテゴリーを意識しながら少し分析も深めて、今後の観光施策に生かしたいと考えています。以上です。

○小林委員 観光動態調査と宿泊統計のことでお答えをいただき、再度、質問をしたいと思います。簡易宿所のところで対前年比で7.9%減少していますが、新設された施設の影響でBエリアの増加率が高かったという結果が出ています。今もご答弁の中の一部にあるかと思いますが、簡易宿所の宿泊数をふやす対策としては、施設改善なども必要だということで、そこでの支援が求められていると思います。お尋ねしたいのは旅館です。2011年より旅館の減少傾向があって2014年度は休業と廃業も影響があるということで、そういう記述もお答えの中にも一部、それに関連してありますが、旅館の稼働率を上げるのに、今、何が必要でどのような対策を進められようとしているのか、お尋ねしたいと思います。

それから大立山まつりです。市町村の意見、要望、協議などというのが具体的に実行委員会を通して市町村に対して協力を求めるという形でされたのかと思います。ですから、その辺の意見や要望がどう反映しているかはお答えの中ではわかりにくかったのですが、主張したいのは、お祭りというのは芸能や、そこに住む人たちの信仰と非常に関係しています。それで奈良県内で立山祭りをしている広陵町の立山祭は広陵町の無形民俗文化財に指定されており、町内にあります専光寺の地蔵堂を中心とした地蔵盆に伴った行事だと聞いています。地蔵盆はご存じのように子どもたちの守り伝で、地域で地域社会の行事として大切に受け継がれてきたものです。子どもの成長や幸福を願うという行事でして、これは関西を中心に、京都府などを中心にですけれども、各地で行われています。また、橿原市の夏の祭り、立山祭りは八木の愛宕さんとして親しまれている八木愛宕神社で、防火、火難よけの神様だと言われています。愛宕神社は全国各地にあるようです。御所市の名柄

にある天満神社の立山祭りは、天神祭りにも立山が登場していると聞いています。

それでこの大立山まつりですが、このように立山といっても地域の風土と歴史が生み出して培ってきたさまざまな信仰、形で継承されてきているのです。だから、地域の人々が本当に大切に守って親しみと誇りをもって取り組んできたお祭りだと言えると思います。ですから、奈良時代とは直接関係ない立山祭りを開催して観光客を呼び込もうとするのが今回の大立山まつりですが、この取り組みは奈良観光の価値の本質を取り違えているのではないかと、平城宮跡をにぎわい祭りのイベント会場にするものではないかと思っています。それで2問目では、この伝統文化の保存ということ、地域経済の活性化というのであれば、市町村のまちの参加を含んでいますけれども、地元の取り組みこそ、もっと支援すべきだと考えているのですが、この点についてはどのようにお考えになっているのかお尋ねしたいと思います。

○山口観光産業課長 旅館の稼働率を上げるためにはどうすればいいのかという質問です。

本年夏に実施したキャッシュバックキャンペーンを例に挙げますと、そのキャンペーンを有効に利用しながら独自のおもてなしを工夫されて著しく伸びており、対前年比を全ての月で上回っているという旅館が見受けられました。やはり努力をし、PRにも一工夫している旅館はかなり伸びると思います。また、ネットクーポンキャンペーンについても、オンラインエージェントを使っているか使っていないかということですが、ホテルはほとんどがOTAに参画をしておりますが、旅館、簡易宿所となるに従って非常に少なくなるということがありますので、今伸びている媒体を活用することは非常に重要ではないかと思っています。

また、旅館という宿泊施設の形態上、もともと1室利用が多人数であればあるほど安いという形態ですが、その料金体系の見直しも必要ではないかと。今2人程度で利用される方、また、一人旅がかなりふえていますので、1人1室の料金も考えて料金体系も少し工夫していただければどうだろうと。また、よく最近は目にしますが、食べることと泊まることを別々に考えるとといったことも手法の一つとして取り上げたらいいのではないかと考えています。以上です。

○林観光プロモーション課長 市町村との調整ですが、具体的には市町村の窓口を通して地域の方たちとやりとりをしています。先ほど立山のお話が出たので、それに関して具体的に申し上げますと委員がお述べのように橿原市、御所市、広陵町の3市町で行われています。その中で広陵町の立山祭保存会があり、11月19日にお祭りの説明会をし、趣旨

をご理解いただいて3つの立山の現場に出展していただく予定です。今後、詳細について調整していく予定です。残りの橿原市と御所市ですが、現在市と調整を進めており、具体的に地元との出展に向けての調整もこれから引き続き早くやっていきたいと考えています。

伝統文化の保存ということですが、委員がお述べのように奈良県には古くから続く伝統的な行催事が数多く残っているところですので、今回のイベント企画に当たっては、そういったものを平城宮跡で伝統文化の保持という観点も考慮して地域の伝統行催事をご披露いただくと。それを見て、実際その現場にその時期に行っていただくという仕組みをしています。今回、協力費ということで市町村に必要なものについては、手当てをしていくよう可能な限り考えていますので、地域の伝統行催事の保存活動についてもそういう面で役立っていくのではないかと考えています。以上です。

○小林委員 旅館の稼働率の問題でもお答えいただきました。先日、県民アンケートで、調査の集計速報も出されており、観光振興に関する項目のうち、奈良県が不足と感じているもののトップに宿泊施設の充実というのが1位だったのです。足りないと答えた回答が1位だった、しかも3年連続1位でその割合もふえていると報道されていたのですが、これは確かに一面の事実だと思ったのですが、この量的に足りないということと同時に質の充実が求められているのだと思うのです。アンケートをしてそういう形で出てきたのですが、量と質、しかも業態別のホテルもそうです、ホテルは稼働率が上がってきています。

ですから、ホテルを建設ということで、今費用面的に出ていますのは、宿泊先をふやすためにまず公共ホテル、上質のホテルの建設という動きになっているのですが、それぞれ簡易宿所も必要だし、ずっと長年、この奈良県の観光客を支えてきた旅館などが衰退していくというのは非常に残念なことだと思います。それぞれ必要だと思っています。ですから今後の観光客には、もちろん宿泊施設の充実が求められているのですが、とりわけ稼働率が低い旅館や簡易宿所への支援を先ほど幾つか述べていただきましたけれども、量だけでなく質の向上もやはり中心に支援をしていただくことを特に要望しておきたいと思います。

それから大立山まつりで、確かに企画の中でそれぞれの市や町が伝統的に行っている立山まつりについても、この会場で展示をする、実演をするなども組み込んでいただいているのですが、それぞれの地域で行っている立山まつりもこれをずっと引き継いで、その地域で残していくためには今、非常に困難な点も幾つかあるのではないでしょう

か。後を引き継いでいく、なかなか人がつながらないということも実際にはあるのではないかと思います。主張したかったのは、そういう点では一つにまとめてしまって、それぞれ信仰や出てきた経過やつくられてきたものも違いますから、むしろそれぞれのところを中心にやはり支援をしていくべきではないかと。そこでイベントとして観光にこういう形で進めることについては、見直し、再検討が必要ではないかという意見です。住民と協働して地域が受け継いできた伝統や文化と観光をどう結びつけて展開させていくのかをもっと考えるべきではないか。意見を申し上げまして終わります。

○乾委員長 ほかにありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

ほかになければ、これもちまして質疑を終わります。

それでは、理事者の方は退室願います。ご苦労さまでした。

委員の方はお残り願います。

(理事者退席)

それでは、本日の委員会を受けまして、委員間討議を行いたいと思います。

お手元に委員間討議の参考に初度・9月開催の委員会の取りまとめをお配りしておりますので、お目通し願います。

それでは、当委員会の所管事項であります歴史とにぎわい創出による観光振興に関することについて、今後、当委員会で取り組むべき方向または特に議論を深めるべき課題や論点等につきましてご意見をお願いいたします。

それでは、ご発言お願いいたします。

○和田委員 結構です。

○岩田委員 課題を書いているから、そのとおりでいい。

○乾委員長 次に、県外調査ですが、前回の委員会で県外調査を実施してはどうかという提案がありましたが、このことについてご意見ありましたら発言願います。

○和田委員 委員長に一任します。

○乾委員長 そうですか。そういう意見が出ましたので、それでは、正副委員長にお任せ願えますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

時期的には2月ごろとは思っているのですけれども、細かいことは後から皆さんに報告したいと思います。

特別委員会の県外調査は各派連絡会の承認を得た上で実施となりますので、本日の結果を各派連絡会に報告させていただきます。

なお、詳細については、正副委員長に一任願えますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

それでは、これをもちまして本日の委員会を終わります。